

● 地理的及び自然的特性

桑折町は、福島県の中通り北部に位置する面積 42.97 km²の町である。南北に東北新幹線と東北本線が並行して縦走しており、また、東北縦断自動車道と国道 4 号が縦断しているなど、交通の要衝の地となっている。さらに、令和 2 年 8 月に東北中央自動車道・相馬福島道路が開通し、現代版「追分」として、企業立地や地元特産品の販路拡大、広域観光ルートの形成など多目的な経済活性化が期待されている。

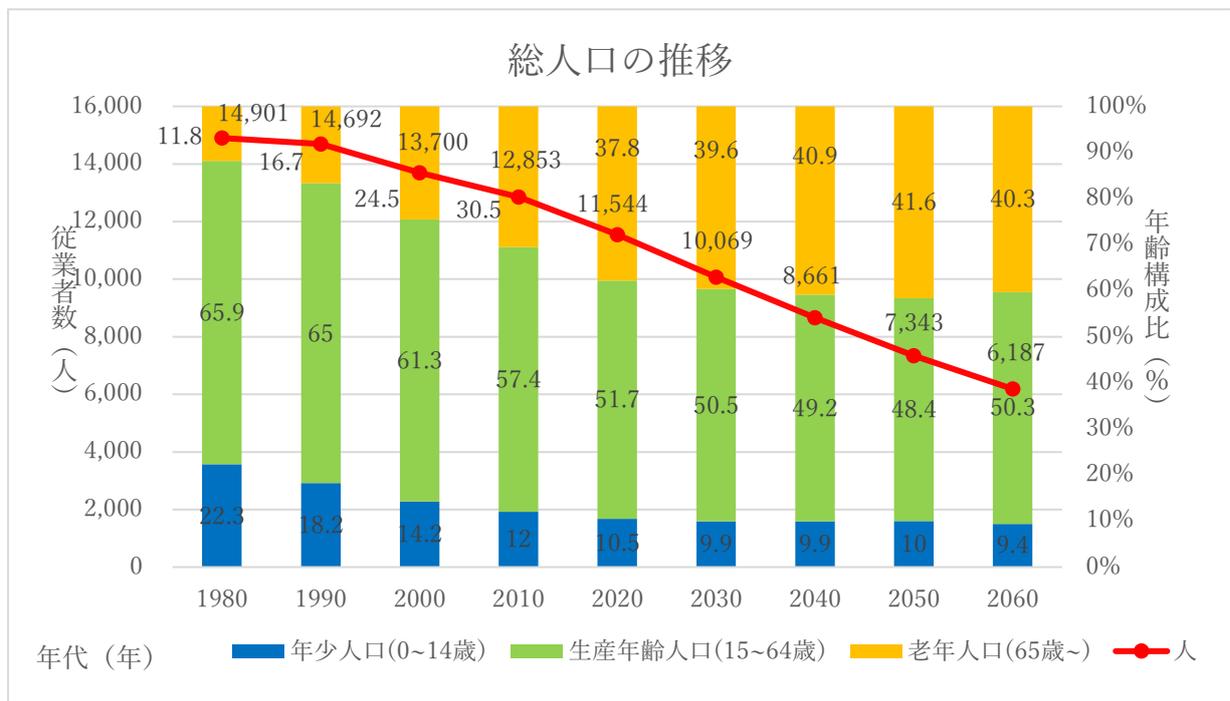
町の基幹産業は農業であり、米や果物の栽培が主流となっている。特に、阿武隈川の旧氾濫原を中心に栽培されている桃は上質で、1994（平成 6）年から 26 年連続で皇室に献上されている。

また、町の南部には工業団地があり、自動車部品製造業など約 30 社の優良企業が集積している。高速交通網の整備が進んでいることから、工場増設などの動きも活発で、より一層町民の雇用の確保や地域経済活性化につながることを期待されている。

● 人口

本町の人口は、1955（昭和 30）年の合併後から 1985（昭和 60）年にかけて、15,000 ～ 16,000 人程度で推移していたが、その後、減少傾向を示し、2010（平成 27）年には 12,271 人となるなど、減少傾向に歯止めがかかっていない。人口減少傾向は、今後も継続することが見込まれ、現状のまま推移すると 20 年後の 2035（令和 17）年には 10,000 人を下回り、55 年後の 2060（令和 42）年には現在の半数程度まで減少することが予想されている。

生産年齢人口は、2015（平成 27）年の年齢構成では、年少人口（0～14 歳）の割合は 11.0%、生産年齢人口（15～64 歳）は 54.1%、高齢人口（65 歳以上）は 34.9%であり、少子高齢化が進行している状況にあり、このような状況を放置した場合、急激な人口減少により、生産年齢人口（15 ～ 64 歳）も半数程度まで減少し、地域経済規模も縮小することが懸念されるとともに、行政サービスや商業などの民間サービス、様々な地域社会活動など、町民生活に大きな影響を及ぼすことが懸念される状況にある。



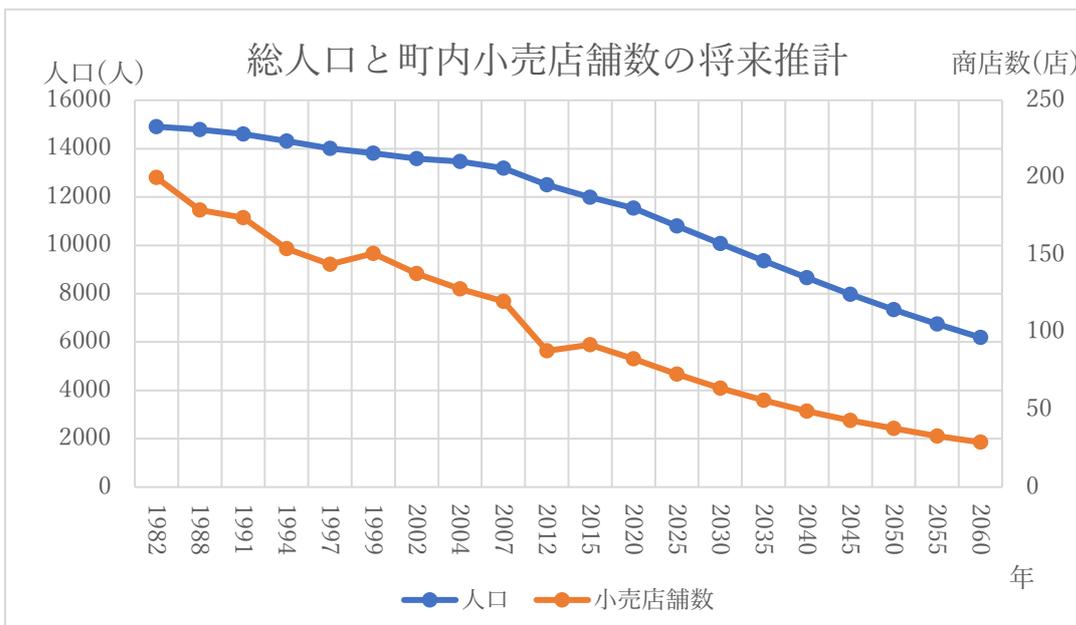
出典：1955～2010 データ/国勢調査（総務省統計局）

2015 データ/福島県の推計人口（福島県現住人口調査）（福島県）の 2015 年各月人口を基に推計

2020～データ/国立社会保障・人口問題研究所推計手法に準拠した推計（仮定値は福島県値を採用）

● 中心市街地

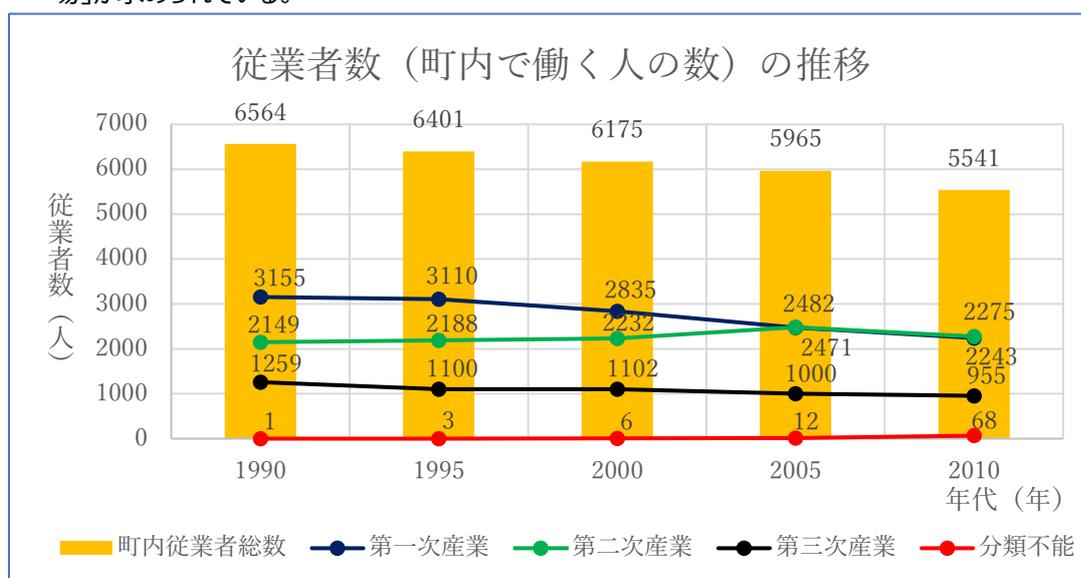
本町の中心市街地にある福島蚕糸跡地を取り巻く環境は、モータリゼーション（自動車社会）の進展、多様化する消費者ニーズやライフスタイルの変化、郊外型大型店の出店等により厳しい状況に置かれている。また、高齢化や後継者不足等の要因により商業者が営業を止め、空き店舗の増加につながっており、商業の衰退を要因とした居住人口の減少、若者の都市部への流出も起きており、その一方で、高齢者世帯が増加傾向にあるなど、まちなかの賑わいが乏しくなっている。



出典：国勢調査、商業統計、経済センサス、住民基本台帳人口移動報告

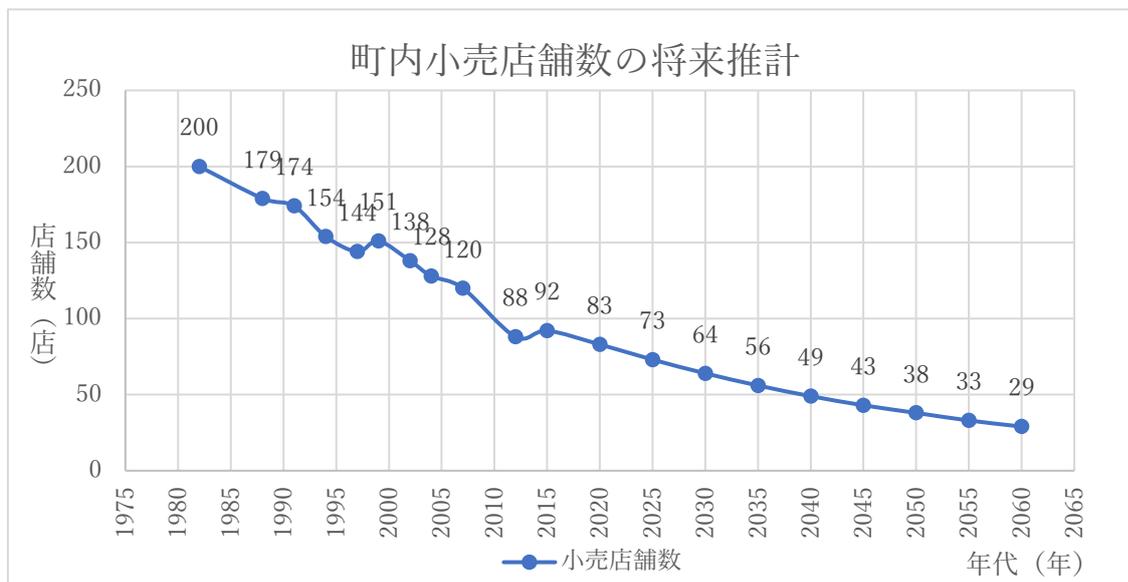
● 就業の場の確保

桑折町の主要な雇用の場となっている農業と製造業を含む第一次産業と第二次産業の従業者数は、1990（平成2）年から2010（平成22）年の20年間で1,023人（15%程度）減少しており、町内に「就業の場」が求められている。



出典：国勢調査

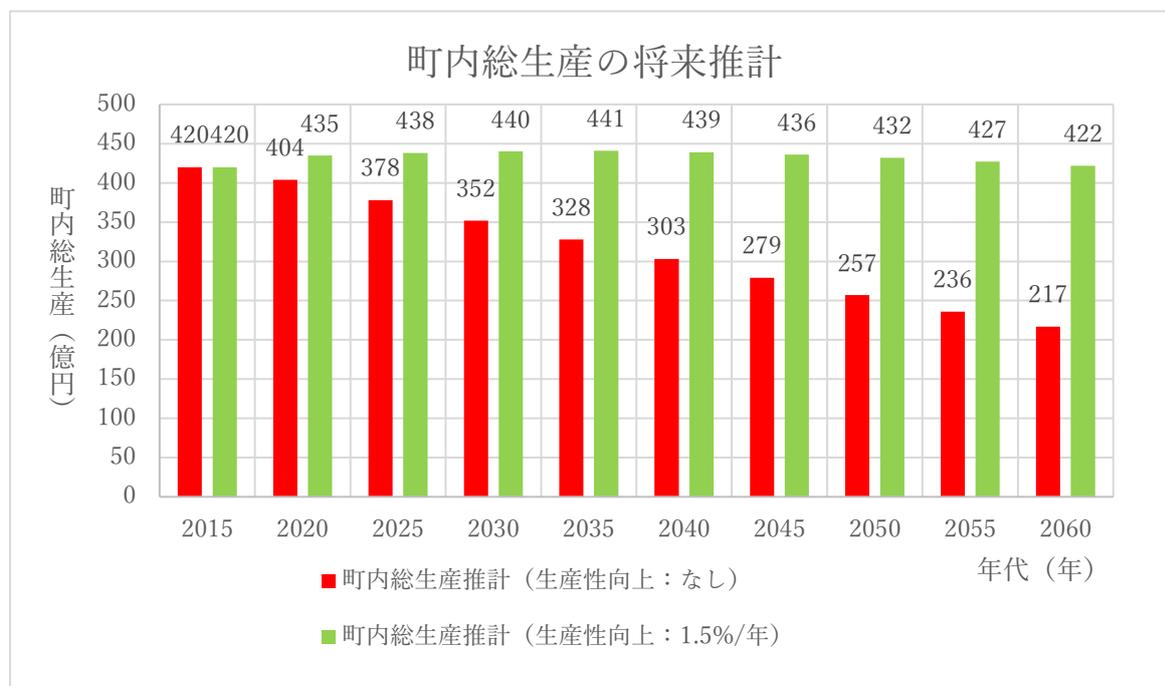
人口減少により、2060（令和 42）年の町内小売店舗数は、2012（平成 24）年（88 件）の 3 割程度（29 件）まで減少することが推計されており、小売店舗や民間施設等の衰退により、町民が利用可能な各種サービスの低下が危惧される。



出典：国勢調査、商業統計、経済センサス

● 地域経済の規模縮小

人口減少により 2060（令和 42）年の町内総生産は現在の 50%程度まで減少することが推計され、町内の経済規模が縮小されることが危惧されることから、現状の経済規模を維持するためには、生産性を年間 1.5%ずつ高める必要がある。



出典：福島県市町村民経済計算年報